

会 議 録

会議の名称		令和 7 年度第 1 回学園の森義務教育学校コミュニティ・スクール協議会		
開催日時		令和 7 年 5 月 27 日（火）開会 14:00 閉会 16:00		
開催場所		つくば市立学園の森義務教育学校多目的室 1		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	高野 二男 野堀 憲 田村 俊介 柴崎 弓子 村上 義孝 三浦 健一 山崎 裕一 石黒 正美 谷上 智子 石橋 紀世 永井 英夫 大槻 真弓 加藤 光枝 横江 貴之 池邊 晃子 富江 晃 中原 正人		
	その他			
	事務局	教育局生涯学習推進課 地域連携教育指導員 酒井和宏		
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	0 人
非公開の場合はその理由				
議題		熟議「学校・家庭・地域がともに非認知能力を育むために」		
会議録署名人			確定年月日	令和 年 月 日
会議次第	1 開会 2 任命書交付 3 挨拶 4 説明事項 つくば市のコミュニティ・スクールについて 5 会長・副会長の選出 6 協議 (1) 学校運営の基本方針について (2) 地域と学校の連携事業について			

	(3) 熟議「学校・家庭・地域がともに非認知能力を育むために」 (4) その他 ・コミュニティ・スクール協議会の今後の予定について
7	閉会

<審議内容> 1 開会 中原委員：ただ今から、令和7年度 第1回学園の森義務教育学校コミュニティ・スクール協議会を開会いたします。 はじめに、会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。事務局案としてつくば市立学園の森義務教育学校三浦先生にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。 参加委員：お願いします。 中原委員：よろしくお願いします。 2 任命書の交付 中原委員：続きまして、「任命書交付」を行いたいと思います。CS協議会委員の任命書及び地域学校協働活動推進員の委嘱状は、皆様の机の上に配布してあります。お名前など御確認いただき、不備がある場合には、事務局までお申し出ください。なお、この会議において皆様は、非常勤特別職として任命され任期は今年度末までとなります。また、守秘義務等の責務がございます。御留意ください。 3 挨拶 ・学園長挨拶 4 説明事項「つくば市コミュニティ・スクールについて」 酒井地域連携教育指導員より説明 5 会長・副会長の選出 中原委員：協議の前に、会長と副会長の選出を行いたいと思います。選出につきましては、つくば市コミュニティ・スクール協議会に関する規則の第5条第2項に「会長及び副会長は、委員の互選により定める。」とあります。昨年度、座長・副座長として活動していただいた村上委員、石黒委員は引き続き協議会委員になっていただいているので会長を村上委員に、副会長を石黒委員にお願いしたいと提案させていただきたいと思います。皆様いかがでしょうか。 参加委員：（拍手） 中原委員：それでは、村上会長・石黒副会長よろしくお願いいたします。必要なものを持ってお席の方に御移動ください。この後は、村上会長に進行をお願いいたします。 6 協議	
---	--

(1) 学校運営の基本方針

村上会長：それでは、各学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明及びグランドデザインを受けての特色ある教育活動について、学校長より御説明をお願いします。

永井校長：学園グランドデザイン（学園要覧）の説明

- ・子供たちの実態

- 明るく、基本的な生活習慣が身についている

- 修学旅行でも時間に対する意識が高い

- いいところがたくさんある

- しかしこのまま何もしなかつたら成長が止まる

- ▲自己肯定感、自己有用感が低い

- 運動も勉強もできる子供が多いが自分に自信をもっていないことが多い

- ▲平凡な生活を送れば良いと思っている子供が多い

- もう少しチャレンジしてほしい

- ・アウトプットできる子供にしたい

- 力を持っている子供は多い

- 我々が仕掛けをするとできる子供が多い

- ・これからの時代は世の中がめまぐるしく変わる

- アメリカのトランプの関税問題

- ・未来の時代をたくましくしなやかに育っていくために、そして、9年間を通して育てたいという思いから教育目標を考えた

- ・教育目標「未来を志向し、心豊かにたくましく生きる学園生の育成～『学びをつなぎ、心をつなぐ』小中一貫教育を通して～」

- ・非認知能力の育成に焦点を当てた

- 認知能力は記憶力、計算力、読解力など

- 非認知能力は自分と向き合う力、他者とつながる力、自分を高める力など

- 今年から系統立てて育てていきたい

- ・学森の大樹

- 認知能力は葉っぱ、非認知能力は地中にはびこっている根っこ

- 大きな木は必ず根っこが張っているはず

- 将来大きな花を咲かせてほしい

- 根っこは小さなころから育てていきたい

- ・3つの力を育てつつ本校の学園生像『自立・共創・大志』を掲げている

- ・3つのプロジェクト『まなプロ（学びに向かうプロジェクト）、ゆたプロ（豊かさ、しなやかさプロジェクト）、たくプロ（たくましさプロジェクト）』に分けて、教員も意識すべき力を頭の中に入れて子供たちに開いていこうと思っている

- ・学校だけでは限界がある

- CSや学校評価を活用しながら地域と共に子供たちを育てていきたい

- ・働き方改革やコンプライアンスも大切にしたい

村上会長：ただ今の件につきまして、御意見や御質問があればお願いします。
(質疑応答)

石黒副会長：去年とはだいぶ変わったが、校長先生のやる気や熱意が伝わってきて素晴らしいと感じました。質問ですが、目指す学園生像が以前は「挑戦・創造・協働」だったかと思いますが、これを以前と変えたことに対しての迷いはなかったのでしょうか。

永井校長：私が教頭のとときに開校時のスクールモットーを作ったのですが、それをどけて、自分の色を出したいという気持ちがあるわけではありません。「創造・協働」は「共創」という形でまとめました。「挑戦」は「大志」と近いと思います。今までと変えたいのは「自律」です。今の子供たちを見ていると自律していない子が多いように感じます。小さい頃から育てたいという思いがあります。今までの3つをベースに、1つ加えたようなイメージをもっていただければと思います。決してこれまでの物を変えたわけではありません。

村上会長：ありがとうございました。先ほど教育局から説明がありましたように、コミュニティ・スクール協議会の機能の一つに、「校長が作成する学校運営の基本方針の承認」があります。これを踏まえて、この協議会においても、委員の皆様は、今後、育てたい子供像に向けた手立てについて様々なお立場から御意見を頂戴できればと思います。まずは、グランドデザインへの御承認をいただき、今後、グランドデザインについても育てたい子供像に向かっていく上で必要な事柄があれば、一緒に考えたいと思います。それでは、令和7年度学園・各校のグランドデザインに御承認いただける方は拍手をお願いいたします。

参加委員：(拍手)

村上会長：ありがとうございました。校長先生におかれましては、本内容にて学校運営をお願いいたします。

(2) 地域と学校の連携事業 予算計画について

村上会長：池邊先生お願いします。

池邊委員：今年度から、地域と学校の連携事業について予算がついておりますので、予算計画について説明いたします。

○予算計画概要

- ・学校と地域が連携する学校グランドデザイン実現に向けた講演会等の開催
→昨年度の推進委員会議の中で、開かれた学校づくりのために、家庭や地域へ発信するだけでなく、学校へ呼んで巻き込んでいくとよいという意見をいただいたため
→2つの講演会を開きたい
→非認知能力の第一人者である中山先生と非認知能力の高い人で結果を残している人を呼ぶ
- ・地域人材（筑波大学院生）を生かした補習授業および部活指導のサポート

→すでに7、8年生を中心に放課後の補習を行っている

○予算の必要性

- ・学校が目指す学園生像について地域や保護者と共有し、協働して育成するために、外部講師を招いた講演会を開催したり、地域人材を活用した活動を展開したりするため

○期待される効果

- ・外部講師を招いた講演会や催しに保護者や地域の方にも参加していただくことで、学校の目指す学園生像をより具体的に共有し、学校のグランドデザインの実現に向けた課題や問題について理解を促すとともに、学校の諸活動への協力体制を構築することが期待できる
- ・地域人材を活用することで、学園生の豊かな学びを推進するとともに、人材のネットワークを広げる機会にする

村上会長：今年度から市内の全小中学校、義務教育学校に予算が下りています。

(3)熟議 テーマ「学校・家庭・地域がともに非認知能力を育むために」

村上会長：続いて、熟議に入ります。熟議を進行するにあたり、ファシリテーターを池邊先生にお願いしたいと思います。皆さん、よろしいでしょうか。

池邊委員：(承認)

村上会長：お引き受けくださりありがとうございます。では、先生よろしくお願いいたします。

池邊委員：熟議のテーマと進め方の説明

非認知能力についての説明

・OECD (2018)

→社会情動的スキル

・ジェームス・ヘックマン

→学力やIQなどの数値では測れない能力を「非認知能力」と定義付け

→幼児教育の非認知能力の育成が重要と唱える

・ポール・タフ

→『「非認知能力は教えることのできるスキルである」と考えるよりも、「非認知能力は子供をとりまく環境の産物である」』と指摘

・森口

→非認知能力は実行機能である。「目標を達成するために、自分の欲求や考えをコントロールする能力」として重要である。実行機能を鍛えるのではなく、うまく働かせる環境が必要、と論述

・中山

→非認知能力は自分の内面にかかわる力であるため、児童が意識することによって望ましい行動へ変わってくる。意識と行動の繰り返しが行動特性や価値観にも影響を与えて非認知能力を伸ばすことになる。

池邊委員：学校・家庭・地域は、学園生が自ら意識的に非認知能力を伸ばしていくために、どのような環境として機能していくかを考える必要があります。本日の熟議テーマは「学校・地域・家庭がともに非認知能力を育むために」です。よろしくお願いします。

・各グループでの熟議約 30 分間

A グループ（発表者：野堀委員）

- ・失敗の中から学ばせる
 - 今の子たちにできるのか。
 - 失敗は成功のもと
- ・大人、家庭がどうさせていくかがこれからの課題
- ・失敗の中で成功をした人もけっこういる
 - そういう人から学ぶことも大事

B グループ（発表者：池邊委員）

- ・生き抜く力が大切
- ・私たちがかける言葉が環境
- ・失敗から学ぶ
 - 私たちが先回りしてやりすぎない
- ・前向きな言葉が大切

C グループ（発表者：三浦委員）

- ・体験活動の充実
 - 昔の遊び（コマや竹とんぼなど）が探究活動につながる
 - 考えることが大切
 - ⇒先生たちも体験活動が大切だと分かっているが、日々の業務が忙しいので、企画が大変。地域の方々が企画してくれるのであれば参加したいという思いがある。
- ・質問する力、調べる力が弱い
 - 必要な情報を得るために A I に何を聞けばよいか
 - 困ったときに先生や生徒に何を聞けばよいか
- ・失敗を恐れる子が多い
 - やらせてみる線引きも難しい
 - 先生も親も教えすぎる

D グループ（発表者：田村委員）

- ・地域や家庭、学校の連携をもっと大切にしたい
- ・自ら考え自ら行動することが大切
- ・地域を巻き込む
 - 親子のコミュニケーションや親子での体験活動が大切
- ・学校行事→様々な経験が大切

- ・会社で使われるようなエンゲージメントの考え方が大事
- (4)その他 コミュニティ・スクール協議会の今後の予定について
最後に御出席のみなさんから何かありますでしょうか。

次回の開催予定日等について、中原先生、よろしくお願いします。

中原委員：本年度、年3回のコミュニティ・スクール協議会について御連絡します。第2回目は、令和7年11月4日（火）14時からの予定です。また、第3回目は令和8年2月19日（木）14時からの予定です。いずれも、本校にて開催いたします。詳細は、追って御連絡いたします。

中原委員：本日の「協議」の内容は、以上になります。また、本日の会議の様子を、つくば市教育委員会ホームページにて写真を掲載させていただきたいと思えます。差し支えのある場合は事務局までお申し出ください。よろしくお願いします。

以上をもちまして、令和7年度 第1回学園の森コミュニティ・スクール協議会を閉会いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

令和7年度第1回学園の森コミュニティ・スクール 協議会

日時：令和7年5月27日（月）

14：00～

場所：学園の森義務教育学校

多目的室1

次 第

1 開 会

2 任命書交付

3 挨拶

4 説明事項

つくば市のコミュニティ・スクールについて

5 会長・副会長の選出

6 協 議

(1) 学校運営の基本方針について

(2) 学校の教育活動や地域の活動事例の紹介

(3) 熟議 テーマ「学校・家庭・地域がともに非認知能力を育むために」

(4) その他

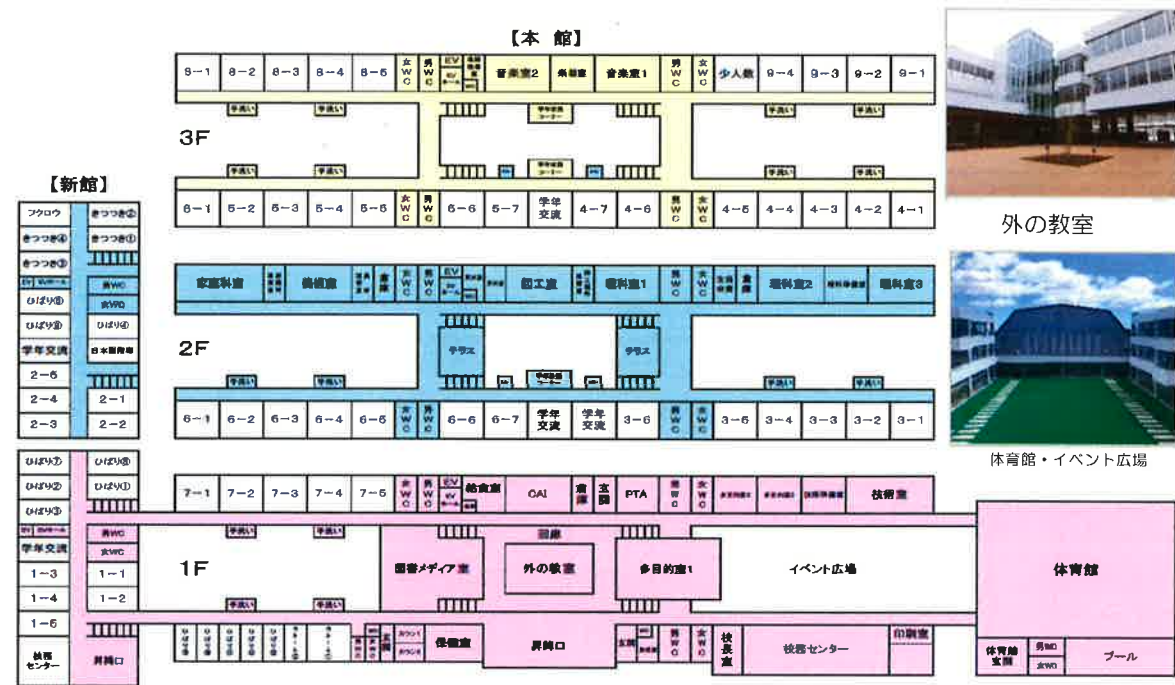
・コミュニティ・スクール協議会の今後の予定について

7 閉 会

令和7年度 学園の森義務教育学校コミュニティ・スクール協議会
(第1回:5月27日 火曜日) 受付名簿

番号	委嘱の区分	氏 名	所属・役職
1	(1) 地域住民	高野 二男	元学校評議員研究学園地区民生委員
2	(1) 地域住民	柴崎 弓子	
3	(2) 児童・生徒の保護者	山崎 裕一	令和6年度PTA代表令和7年度PTAオブザーバー
4	(2) 児童・生徒の保護者	石橋 紀世	令和7年度PTA代表
5	(2) 児童・生徒の保護者	大槻 真弓	令和7年度副PTA代表
6	(2) 児童・生徒の保護者	横江 貴之	令和7年度副PTA代表
7	(3) 地域学校協働活動推進員	富江 晃	元PTA副代表
8	(4) 学識経験者	樋口 直宏	筑波大学教授
9	(4) 学識経験者	野堀 憲	元 教頭
10	(4) 学識経験者	村上 義孝	スクールソーシャルワーカー
11	(4) 学識経験者	石黒 正美	元校長
12	(5) 各学校長	永井 英夫	学校長
13	(6) 教職員	加藤 光枝	副校長
14	(6) 教職員	池邊 晃子	教頭
15	(6) 教職員	中原 正人	教頭
16	(6) 教職員	田村 俊介	教務主任
17	(6) 教職員	三浦 健一	教務主任
18	(7)関係行政機関の職員	谷上 智子	学園の森児童クラブ長
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

校舎図



令和7年度 学校要覧

夢に挑み
Move your heart!
未来を拓く

学園の森義務教育学校



教職員数 4月1日現在

職 名	人 数
校長	1
副校長	1
教頭	2
教務主任	2
教諭・講師	95
養護教諭	3
栄養教諭	1
事務職員	3
新採指導員	4
新採後補充	2
学校管理員	2
給食配膳員	4
学校司書	3
校内フリースクール担当	4
スクールカウンセラー	5
スクールソーシャルワーカー	1
特別支援教育支援員	8
理科支援員	1
学校生活相談員	2
学校サポーター	6
A L T	3
合計	151

学園生数 4月1日現在

学 年	男 子	女 子	合 計
1年生	80	91	171
2年生	94	83	177
3年生	104	99	203
4年生	107	123	230
5年生	137	126	263
6年生	122	114	236
7年生	75	109	184
8年生	90	77	167
9年生	68	67	135
合 計	877	889	1766



つくば市立 学園の森義務教育学校

〒305-0816
茨城県つくば市学園の森2丁目15番地1
☎ 029(846)3115 FAX 029(856)2122
HP <https://www.tsukuba.ed.jp/~gakumori/>



2025 つくば市立学園の森義務教育学校 グランドデザイン



<本県教育目標>
ひとりひとりの能力を開発
豊かな人間性をつちかう
じょうぶな身体をつくり
たくましい心を養う
郷土を愛し、協力しあう

学 園 像
○学園生が「志」に向かって輝く学園
○教師が「やりがい」をもてる学園
○保護者や地域から「信頼」される学園

9年間で育む

学森の大樹

【未来を
たくましく生きる力】



【学園教育目標】
未来を志向し、心豊かにたくましく生きる学園生の育成
～「学びをつなぎ、心をつなぐ」小中一貫教育を通して～

【学校経営の方針】
共に学び、共に磨き、共に育ち、共に拓く学園づくり

学園生像 **【自律・共創・大志】**

◎自分を見つめ、未来を見つめ、自ら学び、自ら
考え行動できる学園生
◎心豊かに誠実に行動し、共に未来を創造できる
学園生
◎志をもち、夢や可能性に意欲的に挑もうとする
活力に満ちた学園生

組織目標

○未来を志向し、「能動的な学び」の具現化を図る授業づくり
○一人一人が「自己決定」し、共に夢や可能性に挑める集団づくり

教 師 像

○熱意と愛情をもち生徒に寄り添う教師
○指導力と実践力のある教師
○未来を見つめ、改革意欲のある教師

<2025 教育の重点>

◎系統的な非認知能力の育成

～自分と向き合い、他者とつながり、
自分を高める～

学園スローガン

Move your heart!

夢に挑み 未来を拓く

学園の森義務教育学校

「学びに向かう」プロジェクト

「豊かさ・しなやかさ」プロジェクト

「たくましさ」プロジェクト

【重点目標】

※「能動的な学び」への具現化を図る授業づくり
◆探究的・協働的な学びの実現に向けた授業づくり
・知的好奇心を高める課題の工夫
・インプット ⇒ 協働 ⇒ アウトプット⇒まとめ、振り返りを重視したPBL型学習の充実
・社会を意識する探究タイム(特設学習)
◆「個別最適な学び」の充実に向けた教育の推進
・思考を広げるためのICTの利活用
・生成AIやインタラクティブスタディの活用
◆つくばスタイル科を核とした教科横断型の学習やSTEAM教育の推進(地域教育資源の有効活用)
◆義務教育学校の特色を生かした教員の活用
・3年生からの一部専科授業
・5、6年生における教科担任制の充実
・中・後期ブロックの教員の交流
◆「教育支援計画」を活用した「切れ目のない」特別支援教育の充実
◆個別の指導計画に基づいた合理的配慮

【数値目標◎80%以上○70%以上】

◎進んで授業に取り組み、自分の考えをもつ
◎友達との学び合いを課題解決に生かす
○授業で「まとめ、振り返り」を大切にしている

【重点目標】

※互いを尊重し合える人間関係の醸成
※「自己決定」できる集団づくり
◆9年間のつながりを意識した教育活動
・「夢を実現」する系統的なキャリア教育
・ブリッジプロジェクト(4、7年)の実施
・非認知能力を育む豊かな体験学習及び手帳教育の充実
・縦割り班活動(前・中・後期ブロック集会の実施)
◆自治能力の育成を目指す学園生徒会活動
・「R研修会」を核とした自治的行事
・有志による学園生徒会活動「きらめき」
・いじめゼロフォーラムの実施
◆共に創り上げる話し合い活動の充実
・合意形成力を育むルールメイキング
・未来を志向した学校行事
◆5つの行動目標を生かした自主性・自律性の育成
◆「折れない心」の育成と組織を活かした教育相談
◆柔軟な指導体制による道德教育

【数値目標◎80%以上○70%以上】

○「夢の実現」に挑もうとしている
○自分には良いところがあると思う
○相手の気持ちを考えて行動できる

【重点目標】

※健康で安全な生活を送る体力づくり
※安全・安心な環境づくり
◆健康教育プログラムの実施
・「早寝早起き朝ごはん」プロジェクトの推進
・栄養教諭による計画的な食育指導の充実
・目の健康(学森あいあいタイム)の実施
◆体力向上プログラムの実施
・発達段階に応じたプログラムの実践
・目的意識を持たせた体育の授業、部活動の充実(6年生の体験活動)
・部活動地域展開の推進
◆地域と学校の協働による文化・スポーツ活動
◆系統的な安全教育の実践を通した自己管理能力の育成
◆事故の未然防止と組織での迅速な初期対応
◆保護者・地域と連携した防災教育、安全教育、情報モラル教育等の充実
◆教職員によるシミュレーション訓練

【数値目標◎80%以上△50%以上】

◎自分の健康や安全を考えて行動できる
◎心身ともに成長していると思う
△体力テストA+B

地域とともにある学校づくり

□地域とともに歩む学校づくり
・地域、保護者との協働体制の構築
・積極的な情報発信と学校評価の活用
・外部人材を活用した補充学習
□大学・研究機関・企業との連携

RPDCA

学校評価
コミュニティスクール

□教職員の資質・能力の向上
「与えられる研修」⇒「求める研修」へ
・「学びの連続性」を保障する学園研修
・業務の効率化を図る学校のデジタル化
・教員評価を生かした資質・能力の向上

働き方改革の推進

【数値目標】超過勤務45時間/月以内～キャップ・カット・効率化

・部活動地域展開 ・末尾1hの有給休暇 ・日課の工夫

コンプライアンス意識の醸成

【数値目標】不祥事「ゼロ」～自分たちの職場から不祥事を出さない

・当事者意識を高める研修 ・教員評価の活用 ・組織的な相談体制

学園の森義務教育学校の教育活動



2025 教育の重点 (系統的な非認知能力の育成)

学森の大樹



認知能力

○記憶力：情報を覚え、必要ときに思い出す力
○計算力：数値を処理し、計算する能力
○読解力：文章を正しく理解し、解釈する力

知識・技能

思考力・判断力・表現力

非認知能力

○自分と向き合う力
(自制心、レジリエンス、忍耐力)
○他者とつながる力
(協調性、共感性、コミュニケーション力)
○自分を高める力 (意欲・向上心、自尊感情、楽観性)

学びに向かう力
人間性

非認知能力の育成

非認知能力とはIQや学力など測定可能な能力ではない、数値化が難しい能力のことです。その能力は大きく3つの視点で捉えることができます。一つ目は「自分と向き合う力」とされる自制心、レジリエンス、忍耐力です。二つ目は「自分を高める力」とされる意欲・向上心、自尊感情、楽観性です。三つ目は「他者とつながる力」とされる協調性、共感性、コミュニケーション力です。本校では学校生活の様々な場面で、非認知能力の育てたい力に基づいた「振り返り」を実施しながら非認知能力の育成に重点的に取り組んでいます。



「学びをつなぎ、心をつなぐ」小中一貫教育

義務教育9年間を、前期(1～4年)・中期(5～7年)・後期(8・9年)の三つのブロックに分け、発達段階に合った教育を行うことを基本としています。また、活動内容によっては、柔軟にブロックを区切ったり組み合わせたりすることで、より効果的な異年齢の生活集団・学習集団を編成しています。その集団を有効活用し、効果的な学習や行事ができるよう系統性を意識した教育活動を進めています。

自律



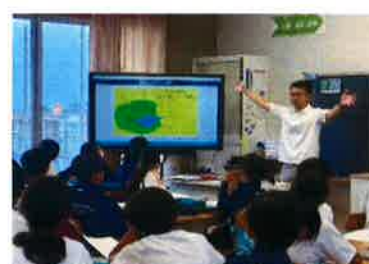
リーダー研修会(5～9年生)

共創



響森祭(9年生全員合唱)

大志



探究的な活動(6年生)